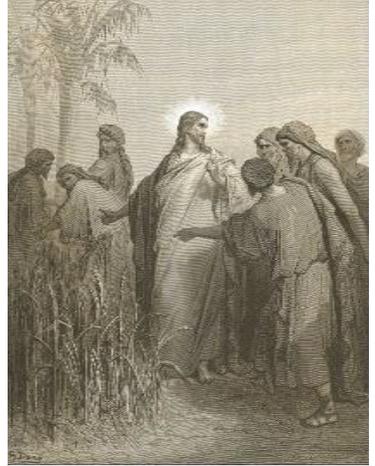


# 安息日

知っておきたいキリスト教のことば (12)

昔、1981年に英国で製作された「炎のランナー」という映画がありました。ご覧になった方もおられるかもしれませんが、あるオリンピック選手が、日曜日にある予選の試合に出場するのを拒否したという出来事を描いていました。

わたしは中学でミッションスクールに通っていましたが、当時サッカー部に入っていたのですが、日曜日には対外試合をしてはならない、練習もしてはならないという規則がありました。実際、出ることができなかった地域の大会もあったくらいです。



これらのことは、「安息日」に由来します。安息日とは、ユダヤ教では金曜の日没から土曜の日没までの間を指します。その間は、一切の労働が禁じられていました。そしてその時間を礼拝など、神さまのためにささげるようにとされていました。

今でも厳格なユダヤ教徒は、この戒めを厳しく守ります。コンロの火をつけることもせず、歩くのも900mまで、車も運転できない（エンジンに火をつけることが労働に当たる）など、様々な細則を決めています。

しかし本来、安息日はわたしたちの生活を縛り付けるものではありません。ヘブライ語で安息日をあらわすシャバートという語は「休息」を意味しますが、神さまが天地創造の7日目を祝福し、聖として休息をとったことが安息日の起源です。そして神さまに与えられたこの休息は、神さまからの賜物であり、奴隷であれ家畜であれ、みんなが休むことができました。

そしてわたしたちキリスト教徒にとって、安息日は主の復活の日を記念する日曜日となりました。わたしたちはその日をどのように過ごすでしょうか。神さまからいただいた大切な時です。神さまに心を向け、祈り、過ごしたいものです。どうぞ、日曜日は教会へ。

次回は「イースター」です。お楽しみに。